

『乳児期からの人権保育』

～1歳の生活から考える～

2018年4月に改訂・施行された「保育所保育指針」のなかで、改定の一つの柱として乳児保育の充実がとりあげられ、乳児の育ちの重要性が明記されています。人権保育プロジェクトでは、一人ひとりを大切に、生きる力の土台となる愛着・人への信頼感・自尊感情を育むために、乳児保育のなかで何を大切にしていくのかについて、話し合ってきました。

子どもたちは、周りの人とかかわりのなかで、自分自身を価値ある存在であると認識していきます。特に乳幼児期には、身近な人たちに大切にされていることを実感できる取組をすすめる必要があります。しかしながら、差別や貧困、地域コミュニティからの孤立など、子どもたちを取り巻く課題が多様化するなかで、家族や身近な人に受けとめられている実感をもてずにいる子どもたちがいます。こうした子どもたちの人権を大切にするために、「自分は大切に思われている」「自分のことが好き」「いっしょにあそぶことが楽しい」などと感じられるような、子どもを尊重したかかわりが求められています。

「子どもを尊重した保育」をおこなうことが、「子どもの人権を大切にする」ことにつながります。子どもの行為の背景にあるたくさんの意味を考えながら、一日の生活の場面で、どのような言葉がけや工夫が「子どもを尊重する保育」につながるのか、1歳の子どもたちの具体的な姿から一緒に考えていきましょう。

園・所での1日の生活をふり返ってみると…



「子どもにとってもっともよいこと」とは？

(子どもの権利条約第三条より)

- 👑認められること。
 - 👑たくさんの愛情を受けること。
 - 👑心地よく過ごせること。
 - 👑安心して自分の思いを出せること。
- それから……。

「子どもの気もちに共感を」

泣いて登園してきたよ… どうしたのかな？

いつもの先生
じゃないと
いやだよー

怒られたー

まだ
眠たいよー

オムツが
ぬれて気もち
悪いよー



しんどいよー

お腹が
すいたよー

泣いていることには、さまざまな理由があります。



こんなとらえ方をしていませんか？

- また朝ごはん食べてないのかなあ…
- 今日もまた泣いてる…よく泣くなあ…
- おうちの人にゆっくりかかわってもらってないから、不安定なのかな…



「また」「どうせ」「今日も」など、子どもや保護者に対する
“決めつけた見方”がまだまだあるのでは…？

大切に
したいこと
かわり

- 泣いている子どもの気もちに共感していますか。
- 保護者が安心して子どもを預けられるような関係づくりを、日ごろから心がけていますか。
- 保育者間で、子どもの家での様子等に対する共通理解をしていますか。
- 子どもや保護者のあるがままの姿を受け入れ、対応しようとしていますか。

1歳児は、まだ言葉では自分の気もちを表現しにくく、私たち保育者がその気もちを汲んで接することが重要であることは言うまでもありません。

泣いている子どもに優しく声をかけたり抱きしめたりして気もちに寄り添っていくことが、子どもの人権を大切にする保育につながっていくのではないのでしょうか？

「オムツ替えは一對一の大切な時間」

オムツ替えをいやがってるよ…どうしてかな？

まだ
あそびたい

ぬぐのが
いや！

トイレ
こわい…



でない！

急にオムツを
脱がされたら
びっくりするよ！



こんなかわり
してしまっ
ていないかな？

- 排泄を同じ時間帯で一斉、または機械的にしていないかな？
- 排泄後、「はい終わり」と済ませていないかな？
- 一人ひとりの排泄の間隔を把握できているかな？

オムツ替えて、濡れたオムツを取り換えて不快感を取り除き、スッキリした心地よさを知る大事な時間。

子ども目線で
考えると…

「大好きな先生に替えてもらうのは嬉しいなあ」
「先生と一緒にいられて嬉しい」
「先生は、ちゃんとこっちをみているかな」

大切に
したいこと
かわり

- 子どもたち一人ひとりの排泄のリズムに合った誘いかけ、対応をしていますか？
- 「気持ちよかったね」「きれいになってスッキリしたね」などの共感する言葉をかけていますか？
- 一對一のかかわりを大事にしなが、子どもの情緒を安定させ、安心感や信頼感を得られるようにしていますか？

オムツ替えは、子どもの顔を見て優しい言葉をかける大事な時間です。子どもは生理的欲求が満たされることにより、満足感や喜びを得ています。いい気持ちになる瞬間におとながそばにすることで、信頼関係が深まります。

オムツ交換の際に言葉をかけていくことが安心につながり、心地よさを感じられるようになっていきます。保育者は、オムツ交換をしながら、「きれいにしようね」「気持ちよくなったね」と声かけを行い、子どもの気持ちを汲んで共感することが大切です。子どもとコミュニケーションをはかることにより、子どもは、「言葉」や「表現」を獲得していきます。

また、衣類に隠れた部分を意識して観ていくことは、虐待の早期発見にもつながります。オムツ替えの時間を、子どもの様子や生活をさらに知る機会としましょう。



オムツ替えは作業ではなく、子どもと一對一で関係性をもてる貴重な時間ととらえましょう。

「楽しい時間は心の栄養」

同じものを食べている、同じものをおかわりする…なんでかな？

形や
柔らかさが
食べやすいん
だもん

それが
好きなん
だもん！

においが
いやだ…



食べたこと
ないんだもん

みためが
いやだなあ



こんなかかわり方をしていませんか？

- 同じものだけでなく他のものも食べてほしいという思いから、「他のものもおいしいよ」「もうなくなっちゃったから、これ食べようか」と無理に他のものを食べさせようとする。
- 「家ではなかなか作れないものが多いから、保育園で食べて味を知ってほしい」と食べさせようとする。



子どもの
笑顔のために

大切に
したいこと
かかわり

- 「おいしいね」と共感しながら一緒に食べる。
- 「これはどんな味かな」と大好きなおとなが食べているのを見て、子どもが自分から食べてみようとする気もちを育む。

楽しく食事が
できているかな？



食事の前に、手洗いに誘ってもいやがるし、手を洗おうとしない…なんでかな？

あそんでるのに、手洗いにいくのいや！もっとあそびたい

水が冷たくていやだもん



〇〇ちゃん、まだあそんでるよ。なんでわたしから言うの？

今はいや！

先生に言われていくのいやだなあ



こんなかわり方をしていますか？

- 食事をするんだから、手を洗おうね。
- みんなが食べ始めると「食べる」って言うから、今、洗っておこうよ。
- あそびたい気持ちはわかるけれど、他の子は用意をしているよ。
- いやがっていても食べ物を見たら、気もちも変わるだろう、と思って手を洗わせる。



子どもの笑顔のために

大切にしたいこと
かわり

- おとなの都合を優先させるのではなく、子どもの思いを尊重して、まずは子どもの思いを知ろうとする。
- 手を洗った後の気もちよさを「さっぱりして気もちがいいね」など、言葉や表情で伝える。

思いを尊重
できているかな？

まとめ

乳児にとって食事は、おとなとの愛着や信頼関係をつくる大切な時間です。食事を楽しく食べるのといやな気もちで食べるのではどちらがおいしく感じるでしょうか？つい「全部食べてほしい」「偏食をなくしたい」という保育者の気もちが先にたってしまういませんか？

食べ物が体の栄養だとすると、自分の大好きな先生や友だちと一緒にすごすゆったりとした食事は心の栄養を蓄えるとても大切な時間だと思います。

「気持ちを受けとめて」

抱っこ、抱っこ…どうしたのかな？



こんなかわり
してしまっ
ていないか？

- また、抱っこ…？(抱っこから降りてほしいなあ)
- 子どもが抱っこをしてほしいと言ってもおとなの都合で抱っこから降ろす。
- 一人だけ抱っこしていると、特別扱いしているように見られそう…



こんなふう
にかかわ
って
みたら…？

- 子どもの「抱っこしてほしい」という気持ちを受けとめ、子どもの心が満たされ、自分からあそび始めるまでかかわる。
(一対一のふれあいあそびなどコミュニケーションをとる。)
- 子どもの好きなあそびは何だろうと考えて、誘ってみる。
- そばで言葉をかけながら、周りの子がどんなあそびをしているのか知らせ、保育者も一緒にあそび、子どもの心をほぐす。
- 子どもの気持ちに寄り添う言葉をかけながら抱っこする。

大切に
したいこと
かわり

おとなは、子どもが抱っこを求めてきた時に、抱っこをしましょう。そうすることで、子どもは「自分が受け入れられた、甘えていいんだ」と心が満たされ安定します。おとなとの応答関係があることで、情緒の安定につながります。また、ありのままの子どものおとなが受け入れていくことで子どもはおとなを信頼し、自分に自信がついていきます。



噛んだり、押したり、どうしたのかな…。

周りの子が
自分に触れて
いやだ…

自分の
したいことを
じゃまされた！

〇〇ちゃんと
あそびたい！

もやもや
するよ～

どいて
ほしい

好きな
あそびが
見つからない



おもちゃを
他の子に
とられて
いやだな…



こんなかかわり
してしまっ
ていないかな？

- 大きな声を出して止める。
- 噛まれた(押された)子にだけ、優しく寄り添いかかわる。
- 繰り返し行為をしてしまう子に「また〇〇ちゃん？」と決めつける。
- 噛んだり押したりしそうだと思い込み、先に「噛んだら(押したら)ダメよ!」と言う。



こんなふう
にかかわっ
ていたら…？

- 噛まれた(押された)子に「痛かったね」「いやだったね」と声をかけて気もちを受けとめる。噛んだ子には「～したかったの？」などと気持ちに寄り添いながらも、噛んではいけないことを伝え、子どもの気もちを言葉にしていく。
- 大きな声で怒るのではなく、一対一でかかわることで、子どもが自分の気もちをわかってもらえたと感じられるようにする。
- 「〇〇ちゃんも～されていやだったと思うよ」と、相手の気もちも知らせていく。
- 使いたいおもちゃや道具があった時、保育者と順番を待ち、それであそべたという経験を重ねていく。

大切に
したいこと
かかわり

子どもは、育ちのなかで、他の子どもへの関心が高くなってきています。同時に、自己主張も強くなってくるので、他の子とのトラブルも増えてくる時期です。そこで、おとなと一緒にあそびながら、人のかかわり方を知らせていくことが大切になります。また、保育者が子どもの気もちを、繰り返し肯定的に言葉にすることも大切です。そうすることで、子どもは「自分のことをわかってくれた」という安心感を持ち、相手にも思いがあることに気づいていきます。

噛む、押すなどの行動には理由があると考えます。怒ったり決めつけたりせずに、子どもの気もちや姿を受けとめましょう。そして見えてきた子どもの思いや行動の背景を、職員間で共有しましょう。

また、保育園(所)で起きた子どもどうしのトラブルを保護者に伝える時には、十分な配慮が必要です。双方の保護者に子どもの今の姿と今後の発達などの見通しを伝え、保護者と一緒に考えていくことが大切です。

「応答関係を大切に」

布団に入りたくない…どうしたのかな？



? こんなかわり
してしまっ
ていないかな？

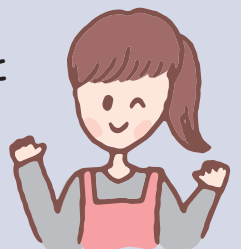
- 早く寝かせようとして強めに布団をトントンする。
- 「もう寝なさい」「めをつむって」「おばけがくるよ(怖がるもの)」などと言って、寝かそうとする。
- 寝ずに動いたりしゃべったりしている子の布団を離して敷く。

! こんなふう
にかかわっ
てみたら…？

- 布団に入りたくない気持ちを受けとめる
「眠くないんだね」「布団がいやなのね」「あそびたかったのね」「起きたらまたあそぼうね」など共感的な言葉を添えながら対話し、安心感がもてるようにする。
- 気持ちをリラックスさせる
 - ・抱っこをする
 - ・やさしくわらべうたを歌いながら背中をさする
 - ・頭や顔をなでる
 - ・体や足のマッサージをする

大切に
したいこと
かわり

1歳児の午睡時間は、子どもの成長に必要な時間です。しかし目をつむり、眠っていくことに不安を感じる子どももいます。子どもの寝たくない気持ちや行為に対して、保育者が受けとめ返してくれることが「自分は大切にされている」という安心感につながっていきます。午睡の時にも、一人ひとりの子どもに合わせてた応答関係を大切にしていきたいですね。





保育の土台としての人權



平成30年4月に、新しい「保育所保育指針」が施行されました。この新しい「保育所保育指針」では、乳児保育と1歳以上3歳未満児の保育についての記載が充実しています。また、保育所が幼児教育機関として位置づけられたことも大きな特徴の一つです。0歳児から3歳未満児の保育の充実と、保育所が幼児教育機関として位置づけられたことは無関係ではありません。0歳児から3歳未満児の保育は、教育の土台となるものです。

0歳児から2歳児の間に形成される保護者や保育者との愛着関係、基本的信頼感、他者との深いかわりの欲求といったものが、土台になっていきます。ここに、人權という視点に立つことの重要性があります。愛着関係や信頼感、他者へのかわりの欲求は、その子の人權が保障されるかわりにおいてのみ生じるからです。

0歳児から3歳未満児の人權というと難しく聞こえるかもしれませんが。今回のプロジェクトの取組を通して、具体的な場面から考えてみてください。

人權保育プロジェクト アドバイザー 鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴



このパンフレットは、公益社団法人 三重県人權教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。

<http://www.sandokyo.jp>

- ▶2006年度／「節分・雛祭りを人權保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶2007年度／「節分・雛祭りを人權保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶2008年度／「いじめ対応の根っこにあるものは？」
- ▶2009年度／「多文化共生から人權保育を考える①」
- ▶2010年度／「多文化共生から人權保育を考える②」
- ▶2011年度／「多文化共生から人權保育を考える③」
- ▶2012年度／「多文化共生から人權保育を考える④」
- ▶2013年度／「自尊感情を育むには…」
- ▶2014年度／「自尊感情を育むには…②」
- ▶2015年度／「あそぼう!つながろう!～心をつなぎ合う意図的なふれあい活動をどのように展開するか～」
- ▶2016年度／『ともに育ち合う保育～「障がい児共生保育」の視点から考える～』
- ▶2017年度／『ともに育ち合う保育～保護者とともに～』
- ▶2018年度／「乳児期からの人權保育～1歳の生活から考える～」